



学校だより



NO.13
東京女学館小学校
令和8年3月6日

冬季オリンピック

校長 盛永 裕一

二月、イタリアでミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催されました。フィギアスケート、スノーボード、ジャンプなどで、日本人が大活躍。選手のインタビューを見てみると、苦しい練習に耐えてきた姿、共に戦ってきた仲間、支えてくれた家族、改めて競技の魅力や選手の生きざまに感動させられました。

フィギア団体は銀メダル。全八種目中五種目を日本が制しました。最後の種目を自己ベストで滑り切った佐藤選手は「パトン」を最後に落とすことなく、届けられたのがよかった」と振り返っていました。のしかかるプレッシャーの中、自己ベストをたたき出して滑り切った佐藤選手の気持ちの強さを感じるとともに、共に切磋琢磨して技を磨き上げてきたよきライバル鍵山優真選手の存在も大きかったと推察します。二人は高校生から励まし合い、高め合ってきた仲間。男子フィギュアで銀メダル・銅メダルに輝いた時の様子を見ると、よき仲間、よきライバルの存在が大きいことを感じます。

女子スノーボードスケート高木美帆選手。一人で通算十個のメダルを獲得したレジェンドです。今大会では解説者として活躍していた高木菜那さんとの姉妹の絆も素敵なものを感じました。インタビューをしていた菜那さんが、涙する美帆さんに、「もう強くなっていいんだよ」と抱きしめていたシーンには涙しました。ライバルだった中国代表韓梅選手はかつて「生活から練習までストイックに取り組む美帆さんの姿を見て、この人に勝って金メダルを取ります」とはとて言えない。」と評していました。美帆さんにとって、菜那さんは心の支えであり、韓梅選手のようなよきライバルの存在が大きかったようです。

スノーボード女子ビッグエアで金メダルに輝いた村瀬心帆選手。高校生で迎えた前回北京五輪で銅メダルを獲得し、周りからはメダリストとして見られることに苦しみました。さらに大きな怪我もあり、目標を失いかけて、二か月間実家に閉じこもる生活が続いたそうです。そんな中、「心臓らしくたのしくやればいいよ。」と繰り返し声をかけてくれた家族、「一緒に頑張ろう。」と励ましてくれた妹さん。心帆さんは「誰かのためじゃなくて、自分のために滑ろう。」と決意しました。金メダルの裏には、家族の支えがあったのです。

一人の選手の活躍の裏には、家族、ライバル、仲間との出会いがあり、その出会いに感謝する選手の姿があるのです。

八年前の平昌オリンピック。ノルディック複合で、渡部峻斗選手の活躍に心奪われました。ジャンプが終わって、次はクロスカントリー。先頭集団から渡部選手とドイツのフレンツェル選手が抜け出します。先頭走ると強い風を受けてつらいのです。だから、多くの選手は先頭より少し後ろで走って、最後に飛び出して勝とうとします。でも、この二人は違いました。「正々堂々と戦うことが、キング・オブ・スキーだ。」そう思っているのです。レース後のインタビューで、「風が強いからだれかが先頭で引張らなくてはいけない。ぼくも引張ったし、フレンツェルも同じくらい引張ったので、フェアに戦えたと思う。」渡部選手はこのように語っていました。

そして、今回のオリンピックでも渡部選手は、集団の先頭を力走する姿が見られました。駆け引きはしない、その競技を極めようとする姿が見られたのです。競技場に戻ってくると、十九位にもかかわらず大声援で称えられていました。日本人として、誇りに思える選手の一人です。



1年生 「シンデレラをお手つだい」



2年生 「おぼけの森」



3年生 「コスモセイバー」



4年生 「森は生きている」



5・6年生 鼓笛

学芸会

2月14日(土)と15日(日)講堂で学芸会が開催されました。一人ひとりが一生懸命練習してきた役を全力で演じていました。14日の児童鑑賞日では、観客席にいる子どもたちは劇の世界に引き込まれ、笑ったり、歓声をあげたりと思いつり楽しんでいました。お客様がいる前で演じることの楽しさを実感したことと思います。ご来校いただいた保護者の皆様、温かい応援とご協力ありがとうございました。

担当教諭

わたしはぜったいにシンデレラやくをやりたいとおもいましたが、犬のやくになりました。すこしかなしかつたけれど、「犬やく、かわいいよ。」とおともだちが言ってくれました。わたしのこころはあたたかくなって、犬のやくをがんばろうとおもえるようになりました。れんしゅうでは、どんなうごきをしたら犬らしく見えるのか、なんどもかんがえましました。セリフをいうときは、本とうにシンデレラをたすけるようにえんぎしました。わたしがとてもおどろいたのは、いつもやさしいおともだちが、上手にいじわるなえんぎをしていたことです。
1A 児童

わたしは学げい会の本番を本当に楽しみにしていました。わたしは大きな声を出すのが少しにがてなので、大きな声で元気よくせりふを言うということに1番きをつけてれんしゅうしました。いよいよ学げい会本番、わたしが出る場めんの前になるときんちょうしてどきどきしましたが、できるだけ大きな声で言えるようにがんばりました。フィナーレの「大空のカーニバル」をみんなで元気よく歌ったときは楽しい気持ちでいっぱいでした。4年生ではもっと長いせりふを言えるようになります。
2A 児童

宇宙人を決める時は、自分にぴったりのダンスをえらびました。ふりつけを決める時に、同じ役の仲間と言い合いになってしまてあまり決めることができませんでした。でもB組の人の映像を見ると、自分たちのとくいなところを表現してすごいいいと思いました。本番は、今までで一番上手くできたと、楽しめました。練習はつらかったけれど、良いおどりを考えることができました。先生やバレエのメンバーたちがいなかったら、このおどりはできませんでした。先生とバレエのメンバーみんな、「ありがとう！」
3A 児童

私は、希望していたむすめ役ができることになり、嬉しかったです。いざ練習となると表現が難しいところがたくさんありました。ここは嬉しそうに喜んで言うのかな？ここは悲しそうにしょんぼりして言うのかな？ここは間が空いてしまうな...ここはゆっくりしゃべらないと聞き取れないかもしれない...。客席からはどう見えているのか考えながら、自分なりにセリフを言い、体育館・講堂でも練習しました。また、私はピアノを習っているのですが、伴奏もしてみたいと思「ころがれころがれ指輪」を弾くことになりました。歌と合わせるのが難しかったです。本番、舞台袖で緊張すぎて、心臓が飛び出しそうになっちゃいました。直前までみんなで話し合い、とてもすてきな劇になったと思います。
4B 児童

私たち5年生は、下級生や幼稚園生に楽しんでもらうという目標で学芸会の準備をしました。皆で意見を出し合いながら、台詞、衣装、題名、小道具等を自分たちで考え、「本当の主役はだれ？」という作品を作り上げるのは楽しいけれど大変でした。チーム同士で見合ってお互いにアドバイスをしながら練習していくうちに、だんだんと自分の役が好きになり、この役でよかった、と思うようになりました。本番、自分たちの発表が近づくに連れてわくわくドキドキしてきました。舞台上立つと緊張したけれど、皆が楽しそうにやっていたので私も楽しくなってきました。練習の成果を発揮できました。目標も達成することができたと思います。最後の学芸会でしたが、特に楽しい思い出になりました。
5B 児童

私たち6年生は、英語劇「サウンド・オブ・ミュージック」を演じました。私はPOLICE役でした。台詞は長くありませんでした。でも短いからこそ一言一言を大切にしようと思い、英語の発音をはっきりさせることや、声の強さ、言い方に気をつけて練習しました。また、台詞が少ない分、立ち方や歩き方、表情などで、POLICEらしさが伝わるように工夫しました。本番はとても緊張しましたが、気持ちを込めて元気よく演じることができました。先生方にもおほほほ嬉しかったです。最後の学芸会で、どんな役でも自分なりに全力で取り組むことの大切さを学びました。この経験をこれからも大切にしていきたいです。
6A 児童

5年生 「本当の主役はだれ？」〈創作劇〉



6年生 「SOUND OF MUSIC」〈英語劇〉





お箏クラブ

6B 児童

最後の学芸会のお箏の演奏は、みんなで気持ちを合わせることでできてうれしかったです。本番では少し緊張してしまい、練習のときよりもテンポが早くなってしまいました。でも、最後まで止まらずに弾ききることができました。大きな拍手をもらい、今までがんばって練習してきたよかったと思いました。これが最後の学芸会なのはさみしいですが、みんなで演奏した時間は大切な思い出です。



レクリエーションクラブ

6B 児童

出番になると引き締まった表情で舞台上がる4年生を、皆で見送りました。私たちが4年生も、お客様方が、拍手してくださったり笑ってくださったりすることで、自然に笑顔になり、発表をすることができました。お客様、ありがとうございました。来年からは4年生が学んだことを生かし、上級生としてクラブを作り上げていきたいと思っています。

バトンクラブ

6A 児童

客席のたくさんの方々に圧倒され、また最後の発表ということで、緊張が高まりました。しかし、客席の父と母の顔を見た時、幼稚園生の時に学芸会でのバトン部のお姉様方を見て、私も女学館に入ってバトン部で踊りたいと思ったことを思い出して、頑張って踊りたいという気持ちに切りかわり、楽しんで踊ることができました。あつという間の3年間。クラブ合宿やクラブ活動での楽しい思い出がいっぱい。そして感謝の気持ちもいっぱいです。思い出を大切にしていきたいです。

音楽クラブ

担当教諭

音楽クラブは、讚美歌の「牧人ひつじを」と、映画アナと雪の女王より「生まれてはじめて」の2曲を演奏しました。11月に開催された東初協音楽祭から、さらに練習を積み重ね、歌では、下のパートを、合奏ではバイオリンパートを付け加えました。みんなでアイデアを出し合い、実現していく姿に大きな成長を感じました。

クラブ対抗試合

体育科 教諭

毎年この時期に行われる、女子校のクラブ対抗試合が2月28日(土)に開催されました。

バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントン、卓球の5つのクラブは3年ぶりに本校が会場でした。東洋英和女学院小学部、日本女子大附属豊明小学校、白百合学園小学校(卓球のみ)をお迎えして、クラブごとに試合をしました。準備から試合、片付けまで協力して行いました。

サッカークラブは田園調布雙葉小学校にて東洋英和女学院小学部、立教女学院小学校、田園調布雙葉小学校の3校と試合をしました。

どのクラブも日ごろの成果を発揮できるように、チームワークを高め、真剣に取り組んだり、力いっぱい応援したり姿が見られました。また、他校の児童と試合を通して交流し、親睦を深めることができました。



テニスクラブ

6A 児童

今年の親善試合は東洋英和女学院と本校の二校で試合をしました。前日のクラブでは当日のシミュレーションをしたりしてお迎えの準備をしました。他校の人とペアを組む試合もありましたが、自分から声をかけるようにしてその試合で勝つ事ができました。他校の試合が初めての4年生も一生懸命頑張っていました。学校、学年を超えてテニスを楽しめる一日でした。

バスケットボールクラブ

6A 児童

今回は最後の親善試合でした。豊明さん、英和さんととても楽しくプレーができました。一番印象に残ったことは最後の混合チームでの試合です。私と豊明2人と英和1人のチームでした。試合には勝てたし、4人の仲もよくなりました。試合後、4人で軽食も食べました。私はもう卒業だけど、小学校でこんなにバスケットボールが楽しいと知ることができて良かったです。家のボールでまた時々プレーをしたいです。

バレーボールクラブ

6B 児童

私たちが試合をした東洋英和小学校と豊明小学校はとても強かったです。2校ともほとんどの人がフローターサーブを打っていて驚きました。力強いサーブで、レシーブしたときに腕に伝わる振動もすごかったです。私たち女学館のチームも、練習通り、ボールを目で追って、みんなで精一杯つなぐことができ、サーブも連続できめることができました。私もフローターサーブを何回かきめられたこと、全試合に出場できたことがうれしかったです。私は中学校でもバレーボールを続けるので、試合で感じたことを活かさんと良いと思います。

卓球クラブ

6A 児童

今日は、「親善試合」の日です。私はドキドキやひやしながら電車の中でずっと挨拶の言葉を小さな声で練習をしていました。私はみんなの前に立つと、いつもは頭が真っ白になってしまいますが、今回は大丈夫でした。試合が始まりました。私の鼓動はどんどん早くなっていきます。最初のリーグ戦では、3勝1敗でAトーナメントに進むことができました。トーナメントは、負ければ終わりです。私は、2回戦まで行きましたが10対11というおいしいところで負けました。他の女学館の皆も残念ながら負けていました。とても悔しかったです。でもこんな悔しいことがあってこそ思い出になると思いました。

バドミントンクラブ

6B 児童

試合をした英和さんと豊明さんは思った以上に強く、前日に立てた作戦も実行できませんでした。私は声かけが少なく、ペアの友達とぶつかってしまいました。相手は声をかけ合い、ぶつかることはありませんでした。また、私は5回くらいしかスマッシュを使えなかったのに、相手は当たり前のように使っていて、「もっと練習しなきゃ」と思いました。優しく接してくれて、いろいろな人と話すこともできて、うれしかったです。3勝2敗で悔しかったけれど、自分なりに精一杯動いて、良い思い出になりました。

サッカークラブ

6B 児童

私たち6年生にとって最後の試合でした。一試合目と二試合目は勝つことができました。これで、次の試合で優勝する学校が決まります。最後の試合は立教さんと負けてしまうかとも思いましたが、「優勝を目指してがんばろう!」と声をかけあいました。最初に二点決められてしまったので、もう優勝は無理かもしれないみんなの気分が下がっていました。後半になり、女学館ボールになった時に、二点うばい返して同点にすることができました。二点目を入れたところで試合終了の笛が鳴りました。これで私たちの優勝が決まりました。初めてトロフィーを持ったのでとても嬉しかったです。みんなフェアプレーを心がけてプレーすることができました。

3月の生活目標 「1年間の反省をする」

1年間のまとめの時期です。学校や学級の目標・一人ひとりの目標に対して、どのように自分が取り組んできてどこまで達成することができたか、自身を振り返る大切な時期です。子どもたち自身が成長を感じ、次の目標を設定することができるよう励ましていきます。友だちと協力してたくさんを経験し、多くのことを学び、大きく成長した1年でした。ご家庭でもこの1年間の成長を話題にして、認め褒めていただけると、次年度への励みになりますのでよろしくお願いいたします。

☆定期券の期限切れにお気をつけください。また新年度まで定期券を購入されない場合、学バスのスムーズな乗車のために、できるだけICカードをご利用ください。



「行事予定」は非公開とさせていただきます。

